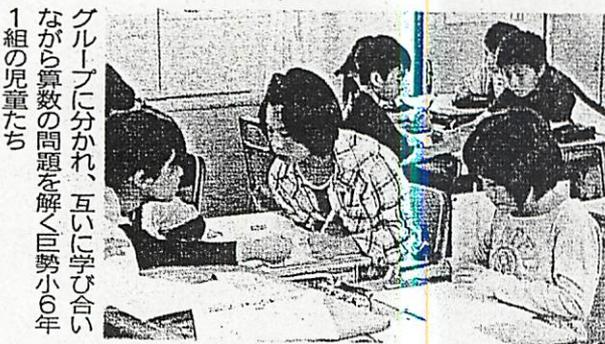


# 僕も私も「センセイ」

## 「学び合い」学力アップ

佐賀県の佐賀、多久、小城市の小中学校が昨年十一月から取り組む「学び合い」授業が、学力向上などに成果を挙げている。子ども同士が教え合い、教諭は課題の設定や理解度の検証に徹する方式。組織的な実践は九州で初めてで、算数のテストで全員が八十点以上を取る学級も出ている。

佐賀市立巨勢小六年一組の算数の授業。担任の松田圭司教諭(三)は、目標として「分数÷分数の計算をみんな解くことができる」とだけ黒板に書いた。児童三十九人は四、五人のグループに分かれて教科書の問題を解き始める。すらすら解く子もいれば、手が動かない子も。苦戦する子に理解度の進んだ子が助言する。松田教諭は児童の理解度を確認するだけだ。



グループに分かれ、互いに学び合いながら算数の問題を解く巨勢小6年1組の児童たち

## 佐賀の交流広がり全員80点超

業を知った。「教師が教えないで授業が成り立つのか」。半信半疑で実践授業をのぞくと「子どもの表情が生き生きとし、意欲的だった」と感じた。現在、同事務所管内で十人ほどの教諭が実践している。

松田教諭の学級は二学期に入り、算数のテストで全員が八十点を超えた。「教えるのをやめることは苦しかった。でも常に誰かがかわり、学力が低い子も置き去りにされないようになった」と手応えを感じている。児童にも好評で、森大地君(三)は「いろんな意見が出て面白い」と言い、古川怜奈さん(二)も「あまり話さない子と話すようになった」と喜ぶ。

先進地の愛知県犬山市で教育委員を務めた名古屋大学院の中嶋哲彦教授(教育行政学)は「教師は子どもがどんな学び合いをしているのか、注意を払う必要がある。学級規模を小さくするなどの条件整備も大切」と助言している。